

# 横芝の碑

(その二十四)

## 三基の馬頭観世音

### へ八十二翁の記録から

上堺小学校方面から、今切の交差点に入るすぐ手前右手の畑の中に簡素な鳥居を前にして形のよい一本松が見えます。その下にはこんもりと繁った常緑樹に囲まれて三基の馬頭観音様の碑が建っています。由緒あり気な佇いは何となく立寄って見たくなりますが、ここは畑の真中で、勝手に出入り出来ないのが残念です。

昔、と言っても明治の半ば頃までは、この辺り一面が松原続きで海岸の方から鳥居の附近を通って立会に通ずる里道が一本だけありました。

或日のこと、餌場屋(魚の餌を造る業)の浅野善助さんと加瀬四五平さんの二人が、新らしく買った馬に荷物を付けてこの道を通りかかりました。ところがどうしたのか、突然馬が足を止めてしまつて、いくら励ましても、黙してもしようしても動きません。

ふと気が付きますと、道端の土が盛り、石の角らしいものが頭を出していました。「これに驚いているのかもしれない」と、二人

でその石を掘出して見ますと、刻文は大分欠けていましたが、どうやら馬頭観音と判読できました。「これは勿体ないことだ」と、よく土を掃い、人や馬に踏まれないような所に安置しますと、今まで押しても、引いても動かなかった馬が、すたすたと歩き出しました

この馬頭観音の御霊験は、松林が伐採されて畑になった後まで語り伝えられてきました。観音様の



「不思議なことがあるもの」と思っていました。そして仕事を終らせて帰ってきた二人は、改めてその碑を洗い清めてお祭りしました。

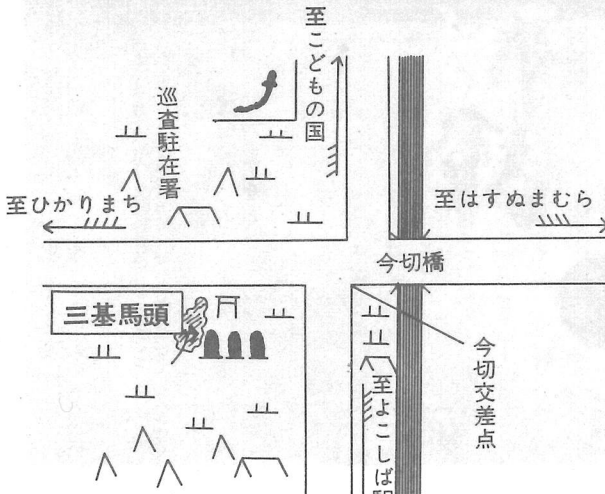
其後、二人の馬が積んだ荷物は何処でも評判がよく「間違いのない確かなもの」と言われて喜ばれるようになりしたので「これは馬頭観音様のお陰であろう」と、二人で相談をして、新しい馬頭観音様の碑を建立しましたところ、二人の家の商買は益々繁生したという事です。

この馬頭観音の御霊験は、松林が伐採されて畑になった後まで語り伝えられてきました。観音様の

建っている畑の持主は佐瀬芳三さんという人で、先代からの仕事で繁盛していました。が、「無事に月日を送れるのも馬頭観音様のお陰である」と、もう一つ観音様の碑を建立したので、年代を異にした三基の馬頭観音様が並んで建っておられるのだそうです。しかし、観音様の前に鳥居が建っているという、その由来については残念ながら定かではありません。

◎写真は その碑で、中央が土中から掘り出されたもので、辛うじて馬頭、或いは月日等の文字が判読できます。左側の碑には、明治二十五年辰吉日、馬頭観世音、発起人、浦賀村加瀬四五平、浅野善助と刻まれ、右側の碑には、馬頭

建っている畑の持主は佐瀬芳三さんという人で、先代からの仕事で繁盛していました。が、「無事に月日を送れるのも馬頭観音様のお陰である」と、もう一つ観音様の碑を建立したので、年代を異にした三基の馬頭観音様が並んで建っておられるのだそうです。しかし、観音様の前に鳥居が建っているという、その由来については残念ながら定かではありません。



観世音、昭和十四年十二月十一日佐瀬芳三建之、と刻まれています(七月中旬南川岸の林田さんという方から「広報所載の横芝の碑を興味深く読んでいます。自分の住む南川岸にも、古い碑が幾つか残っている。由来などの記録もあるので話し合いたい。出かけて行きたいが八十二才の高齢でそれができない、折を見て調査に来て欲しい」という内容の手紙を戴きました。文字には多少の震えが見えましたが、文章の節々にも折目正しい八十年の人生歴がにじみ出ていました。早速面会日を約してお訪ねしましたが、その卓見に敬服すると共に、南川岸という狭い地域に、こんなに信仰の刻みが残されているのか、と吃驚してしまいました。本橋は、その林田さんの記録を中心にして取材したことを申添えます。林田さんはこの外に、八大竜神、弘法大師堂、三夜様、九十九里のおっぺし、其他明治四十年頃の賃金や物価等まで調べておられますので、後日改めてお訪ねして、いろいろ教えて戴き、できれば本紙等で御紹介申上げたいと思っております)尚、この碑は、始めに記してあります通り、私有地の中にありますので、畑に入る時には農作物を荒さないように見学されることをお勧めいたします。

観世音、昭和十四年十二月十一日佐瀬芳三建之、と刻まれています(七月中旬南川岸の林田さんという方から「広報所載の横芝の碑を興味深く読んでいます。自分の住む南川岸にも、古い碑が幾つか残っている。由来などの記録もあるので話し合いたい。出かけて行きたいが八十二才の高齢でそれができない、折を見て調査に来て欲しい」という内容の手紙を戴きました。文字には多少の震えが見えましたが、文章の節々にも折目正しい八十年の人生歴がにじみ出ていました。早速面会日を約してお訪ねしましたが、その卓見に敬服すると共に、南川岸という狭い地域に、こんなに信仰の刻みが残されているのか、と吃驚してしまいました。本橋は、その林田さんの記録を中心にして取材したことを申添えます。林田さんはこの外に、八大竜神、弘法大師堂、三夜様、九十九里のおっぺし、其他明治四十年頃の賃金や物価等まで調べておられますので、後日改めてお訪ねして、いろいろ教えて戴き、できれば本紙等で御紹介申上げたいと思っております)尚、この碑は、始めに記してあります通り、私有地の中にありますので、畑に入る時には農作物を荒さないように見学されることをお勧めいたします。

(養護老人ホーム小沢所長寄稿)